



六甲カトリック教会 教会報

2024

4

No. 628



よりよいものを求めて

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

主キリストの復活おめでとうございます。今年は4月の初めから区切りよく復活節になりました。四旬節は重苦しい雰囲気ですが、やっと春を迎えて、感謝と賛美のうちに歩んでいきましょう。

聖イグナチオの霊性を表すことばとして、「Magis（マジス）」（ラテン語）があります。英語の more にあたり、「もっと」、「より」という意味です。教会が右肩上がりの時は、マジスとは、何でも大きく、増やしていくようなイメージで使われていました。

最近では日本の社会と同じく、日本の教会も高齢化が進み、さまざまな側面で衰退してきました。例えば、『カトリック新聞』と『カトリック生活（月刊の雑誌）』はこの春で廃刊となります（カトリック新聞は月1回の広報とネット配信中心に）。この教会でも、あちこちで人手不足のために、活動を縮小せざるをえないところが出てきました。継続するにしても新しい奉仕者を探すのがかなり難しいです。

このような状況の中でこそ、今の私たちにとって何がマジスなのかを問いかける必要性を痛感しています。小さくなっていくときこそ、真のマジスが求められています。皆さん一人ひとりと同じだと思います。健康の時には何でもできたでしょうが、病気になって体が弱ったときこそ、よりよい生き方をどう実践するのか。よく黙想しなければなりません。個人としても団体としても、環境が変わったときには何がよりよいあり方かを改めて問いかけ、識別していくことが何より大切です。

この1年はそれを模索していくことになるでしょう。イベントや諸活動のやり方をさらに工夫しながら、信徒同士の交わりの機会を減らさないようにしたいです。信仰の原点につながる祈りの場はしっかりと確保していきたいです。

幸い、昨年叙階したばかりの新司祭、渡辺徹郎神父が赴任されました。これからの活躍に期待したいです。彼には若い世代にかかわってもらい、英神父は年配の方々の司牧に回るつもりです。いつもよりものを識別しながら、個人としても教会としても、神のみ旨にかなった働き方・あり方を求めていきましょう。主キリストの復活の恵みが皆さんにありますように。

なお、この写真は、3月4日の典礼聖歌講習会当日、当教会を訪れた福者高山右近のゆるキャラ「うーこんどの」とのツーショットです。



新助任司祭 渡辺徹郎神父、着任



この度、新しく六甲教会に助任司祭として赴任してまいりましたイエズス会の渡辺徹郎（わたなべ・てつろう）と申します。

出身は東北の宮城県仙台市です。大学を卒業後、サラリーマンをしたり、ワーキングホリデーでトロントに滞在した後、イエズス会に入会しました。イエズス会の養成は修練期・哲学期を東京で、中間期を台北で、神学期を東京とマニラで過ごしました。中間期は台北でイエズス会中華管区が運営する青年司牧センターで実習するかたわら、中国語を学びました。その関係もあり、帰国後は神学を研究しながら、「Magis 巡礼者」というイエズス会日本管区が東京のイグナチオ教会を拠点に主

催する青年（大体 20～30 代）グループと、「イエズス会カトリック中国センター」という東京の上野教会内にある中国語のカトリックコミュニティでの司牧活動に携わっていました。

好きな食べ物はアジア系の料理です。ベトナム料理、タイ料理、韓国料理、中華料理などが好きです。最近、「ガチ中華」と呼ばれる日本人向けに調整されていない本物の中国料理が流行っていますが、そういう本格志向の料理が好みです。

趣味は語学です。新しい言語を学ぶことによって、今まで知らなかった新しい世界が開けてくる感覚が好きです。また、言語習得には日々の小さな積み重ねが求められますが、その地道な努力・作業が何だか楽しいです。夢は箸文化圏の言語（日本語・韓国語・中国語・ベトナム語）がすべて話せるようになることです。

六甲教会が司祭としての初めての赴任地になりますが、みなさまと一緒に教会を主において盛り上げていけたらと思っています。教会をより活性化させるために、何か面白いアイデアがあれば、共有して頂けたら幸いです。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

【渡辺神父様インタビュー】3月11日（広報部）

なんだか若くて大きな人がニコニコしている！それが初めて教会でお見かけした渡辺神父様の第一印象でした。六甲教会に来られたのは3月1日のこと、同3日の歓送迎会で共同体の皆様への着任ご挨拶となりました。折しもインタビューの日は東日本大震災から13年目に当たりますが、当時は神父様の仙台のご自宅も建て直しを余儀なくされるような被害があったそうです。

渡辺徹郎助任司祭は今36歳、叙階は2023年9月でした。カナダ人神父が園長のカトリック幼稚園時代に続き、教会学校に通う少年時代を過ごしたそうです。思春期には洗礼を受けることに乗り気ではなかったとのことですが、オルガニストである母親が、兄や妹とともに三人で先に受洗、その翌年小学5年生の時にご自分と父親の二人も受洗し、家族全員がカトリック信者となりました。教会は仙台カテドラル カトリック元寺小路教会です。

大学卒業後は一般企業に就職するも、1年が経つころ、自分の人生について深く考え始め、“自分は今のままでいいのか” “何のために生きているか”といった identity crisis に陥ったといいます。それが、学生時代からの信仰に厚い友人と話をするうち、彼の神への熱い思いが自分にも燃え移り、自らは神のために何かしたいと思うようになりました。そして、会社を辞めて自分の心を確認するための1年間を経てイエズス会に入会しました。自分は叙階されて司祭になったが、その前にイエズス会修道者であるという渡辺神父様。祈りに根付いた生活をし、イエスさまとの友情を深め、その実りとして、神と人々への愛があふれる人間でありたいとされました。

2024 年度小教区評議会 新議長就任挨拶 堤 福生

このたび宗行孝之介前議長の後をうけ、小教区評議会議長を務めさせていただくことになりました 堤 福生（つつみ・ふくお）です。

小教区評議会議長は、前回の任期を終えてから、今年で9年目になります。六甲教会のため、新たな気持ちで「聖霊の導きを願い」この大役を務めさせていただきたいと思っております。

ところで六甲教会は、信徒の高齢化と人手不足、特に若い世代の担い手不足等の問題を抱えており、若年・壮年層が中心となるような世代交代が必要とされています。このほかイエズス会の4つの優先課題（①イグナチオの霊性をすべての分野に活かす ②若者と共に歩む ③虐げられている人、差別されている人、貧しい人たちと共に歩む ④環境に配慮する）およびシノダリティの精神を活かす歩みへの具体的取組み、また2025年の聖年・大阪・関西万博対応等、重い課題を抱えています。

主任司祭のご指導の下、小教区評議会議長団と共に力を合わせ、課題解決に向けて努力したいと考えています。信徒の皆様から幅広い積極的なご意見・提案を頂いて『聖霊がそのとき教えてくださる』ことを信じ、チャレンジしていきたいと考えています。皆様のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。



2024 年度小教区評議会 役員・評議員

主 宰	主任司祭
議 長	堤 福生
副議長	松井 理直、荏原 いずみ
書 記	中村 節子、岩谷 美禰子

評 議 員

信 徒 会（各会会長など）		専 門 部 会（コーディネーター）	
三日月会	蛭田 武	典 礼 部	中西 裕樹
壮 年 会	小田 琢也	宣教・養成部	松平 麻也
婦 人 会	藤井 敦子	社会活動部	井川 伸子
青 年 会	小阪 智之	広 報 部	大上 尚子
中高生会	渡辺 徹郎神父	施設管理部	林 剛
教会学校	辻原 華	財 務 部	宗行 孝之介
地 区 会	井川 直哉（役員代表）	防災委員会	松井 理直

地区会 役員

		地区長/ブロック長	副地区長	副地区長
7 地区	灘北 1	中村 節子	浅野 真理子	福島 きよ子
	灘北 2	藤井 敦子	小田 琢也	斎藤 節子
	灘南	三垣 恭子	安田 茂	奥野 泰子
	灘西・中央	王子 麗花	中野 公子	石 万里子
	東灘北 1	橋岡 尚美	林 良一	塩飽 博美
	東灘北 2・芦屋	井川 直哉	高木 昌要	増田 瑠美
	東灘南	河野 光成	河野 寛子	園井 裕子
3 ブロック	神戸西	千原 理		
	北・三田	仲本 志のぶ		
	阪神	野村 友佳		

2023 年度 第 6 回小教区評議会 議事録（要約）

日 時：2024 年 3 月 3 日（日） 12：30～14：30

場 所：第 1、第 2 会議室

出席者（敬称略）：

英主任司祭 渡辺徹郎助任司祭

宗行孝之介（議長）、堤 福生（副議長）、多田純子・中村節子（書記）

松平麻也（宣教・養成部）、蛭田 武（財務部・三日月会）、中西裕樹（典礼部）、井川直哉（地区会）、井川伸子（社会活動部）、本下 稔（施設管理部・代理出席）、小田琢也（壮年会）、藤井敦子（婦人会）、三澤尚久（中高生会）、吉村千里（教会学校）、大上尚子（広報部）

<オブザーバー出席者>

鍵山浩三（墓地委員会）、荏原いずみ（新副議長）、岩谷美禰子（新書記）

以上 20 名 欠席 1 名

1. 英主任司祭より

- 1) 人事異動：中村神父、フオン神学生、東京へ。渡辺徹郎神父（助任司祭）着任。
- 2) 社会的にもさまざまなハラスメント事案が取り沙汰されているが、教会においても事案発生への備えは必要で、慎重に対応したい。小教区でセーフガード委員会（宗行、吉村）を設け、基準を作りたい。
- 3) 聖堂内のお花係が高齢化のため解散。復活祭が最後の奉仕。以後は業者に委託する。
- 4) SNS 配信について：ミサの説教撮影・編集担当が、フオン神学生の異動で現在 2 人となり、人手不足。配信は、毎週から月 2 回に変更する。現在 900～1,000 人が視聴している。
- 5) 新たに聖体奉仕者候補を紹介してほしい。今年度、住吉、中央、六甲教会で、4,5 回養成講座を予定している。住吉教会は、養成のみ。中央、六甲教会は任命も行う。

2. 報告事項

- 1) 四旬節第 3 主日のミサ後に行われた歓送迎会には、約 200 人が参加。盛会だった。
- 2) 墓地委員会から状況報告と意見聴取（鍵山）
 - ・ 個人墓地を教会に返還し、共同墓地に納骨するケースが増加。共同墓地の墓石刻銘の方法を 2019 年からプレート式に変更したが、既存の墓石には新たなプレートを入れるスペースがほぼない。
 - ・ 新たな墓石を C 地区西側（植木の場所）に作る。その際、プレート式をやめて、以前のように墓石に刻銘する形に戻そうと考えている。
 - ・ 料金について①：現状では、個人墓地を更地に戻すための費用は個人負担で。納骨費は 2 体目までは無料（教会負担）。3 体目からは 1 体 15 万円の自己負担となっている。
 - ・ 料金について②：最初から共同墓地に納骨される場合は、納骨費が 1 体 15 万円で、その後の維持費はなし。個人墓地利用は、1 区画【1m×2m】について、それぞれ 50 万円（永代使用）+2,000 円（年間維持・管理費）。個人墓地は維持管理費を 5 年以上滞納すると教会が費用を負担して更地に戻す。
 - ・ 個人墓地を返還して共同墓地に納骨する場合、最初から共同墓地に納骨する場合に比べて、個人が負担する費用に差がありすぎるのではないかとということで、この場合の 3 体目からの納骨費を 15 万円から 5 万円にしようかと考えている。個人墓地から共同墓地へ納骨される場合は、様々なケースがあるので、対応は柔軟に考えたい。これらについて小教区評議会メンバーにご意見をいただき、今後の参考にしたい。プレート式はそのままでもいいのではないかと意見も出た。

3. 協議事項

- 1) 3 月行事確認
 - ・ 中高生会春キャンプ（三澤）：3/30～4/1 津和野教会にて中高生 7 人参加、渡辺神父、三澤リーダー、辻原リーダーが引率する。

- ・復活のお祝い（井川直）：神父の挨拶、受洗者の紹介、会食。井川が司会。出席見込みは 150 人。
アルコールを提供する。予算 10 万円。
- 2) 周年事業について（宗行）
 - ・周年事業について議長団で検討した結果、赤松町に移転した 1948 年を起点とし、80 周年（2028 年）として記念事業を実施する。周年事業ワーキングチームで史料発掘、記念誌発行、イベントなど検討する。メンバーは現在進行中の教会のしおり改訂チーム（中西、松平・宗行・大上）に松井副議長を加えて進めてゆく。
- 3) 平和旬間について（松平）
 - ・ルワンダでの義足無償提供している人からの活動についての講演を検討している。
- 4) バザー益金の使途について（宗行）
 - ・議長から、バザー益金の送金先および金額の振り分けについて、社会活動部でプランを練り、バザー実行委員会で素案を作成、小教区評議会で承認後、財務委員会、バザー実行委員会、他関係者で決定したいとの提案があったが、過去の経緯等を参考にして継続して協議してゆくことになった。
- 5) 印刷室の紙折り機について、その管理および予算申請の確認（宗行）
 - ・広報部が管理する。今後、故障など予算外の経費出費があった場合、少額（10 万～20 万）なら部内で判断し、高額の場合は、施設管理部、財務委員会、主任司祭などと相談する。
- 6) 地区会について（井川直）
 - ・高齢化で地区会の活動が難しくなっている。今の地区編成について検討してほしいと意見がでた。
 - ・ゴールデンウィークに地区会について今後の対応について関係者と話し合う場を作ることになった。
- 7) 教会学校が歌集「こころをあわせて」の改訂をするが、中高生会と清水さん（オルガン奏者）も一緒に話し合い、作成に協力する。（三澤）
- 8) 施設管理部より（本下）
 - ・聖堂内の音響改善について、3 月中旬朗読台のマイク、ミキサー、アンプの仮設置をして改善効果の検証をする。日曜日 10 時ミサでモニタリングをして効果が認められれば本設置をする。予算約 40 万円。
 - ・イグナチオホールの東側ガラス屋根の漏水、排煙窓の開閉不具合の工事を梅雨までに完成させたい。見積額（昨年 11 月）200 万円。竹中工務店が再見積もりするので 10% 増が見込まれる。
 - ・ネットワーク設備の更新について設置業者と調整中。聖堂、イグナチオホール、第 1・2 会議室にネットワーク回線設置、Wi-Fi 環境の改善のためのルーター設置。夏までに完了見込み。
 - ・聖堂内の排煙窓修理は時間がかかり、台風時期に間に合わないので、さらに詰めて考える。
 - ・枝の採取 3/20、整理 3/22 のとき、壮年会の協力もお願いしたい。
- 9) 広報部より（大上）
 - ・2024 年の行事予定表（500 部）が印刷完了し 3 月に配布する。紙折り機故障については修理可能か問い合わせ、その後新機の購入を含め検討する。
- 10) その他
 - ・館内での電話・スマホの電波環境が弱いのではという意見があり、電源使用による電波強化の機械の設置について検討することになった。（三澤）
 - ・会議を欠席する場合、部会の人を代理を出してほしい。
 - ・今期で退任される宗行議長、多田書記、中高生会三澤会長、お疲れ様でした。

2024 年度第 1 回小教区評議会

5 月 12 日（日）11：30 より 於信徒会館第 1・2 会議室

《 歓送迎会 》 3月3日

3月3日ミサ後にイエズス会人事異動に伴い
中村助任司祭（写真右）が東京イグナチオ教会
へ、フオン神学生（同・中央）は東京神学院へ。
そして新しく渡辺徹郎助任司祭（同・左）をお
迎えしました。この日はたくさんの信徒のみな
さんが集いました。

中村神父様は4年の間六甲教会で司牧を、ま
た、フオン神学生は8か月の間、神父になるた
めの中間期という修行の期間を六甲教会で過
して東京へと旅立ちました。そして六甲教会が
司祭として初めての赴任先となるという、若い
神父様をお迎えして、「春」が来ました。



3月3日歓送迎会でのお三方。

《 三日月会遠足 》 3月6日、しだれ梅と椿を堪能

春の「三日月会遠足」は、城南宮のしだれ
梅と一休寺。京都にある神苑と寺を訪れまし
た。30数名を乗せたバスは9時きっかりに
六甲教会を出発し、高速道路のスムーズな流
れに乗って、まずは一休寺へ。一休さんとい
えば頓智ばなしが有名で、必ず聞かされる

「屏風の虎退治」と「このはしわたるべから
ず」を久しぶりに耳にしました。昼食は黄桜
酒造の伏見蔵（ふしみぐら）レストランで会席
膳に舌鼓をうち、地ビールや吟醸酒を頼む人
も。そして、城南宮へ。名物のしだれ梅は盛

りを少し過ぎていたとはいえ、十分に風情があり、よく手入れされて、“曲水の宴”でも有
名な「平安の庭」では、150本もの梅の木立の間をめぐり歩きました。城南宮はまた、落ち
椿でも有名で、さまざまな品種を愛でつつのんびり散策することができました。ここでは時
間をたっぷりとってもらえたので、神楽舞も鑑賞できました。ただ、混雑の予想されたこの
時期、一部の庭園（源氏物語花の庭、楽水軒）が入場制限されて
いたのは残念でした。



帰路のお楽しみとして、“じねんと市場”
（関西広域野菜直売所）に寄り、九条ネギや
新鮮な野菜を買い込みバスに戻り、教会には
夕刻まだ明るいうちに帰ることができました。
曇天でしたが雨は降らず、皆元気に気分良く戻
てくることができました。

（写真は時計回りに 一休寺石庭での集合写真
城南宮の落ち椿としだれ梅）

【祈りと音楽の集い】

3月10日(日)14時から主聖堂にて、祈りと音楽の集い～四旬節によせて～が開催されました。

今回はオルガニストの松井公子さんと一緒にバッハやブクステフーデ、高田三郎等の作曲による四旬節を題材にした曲目を集めプログラムを組みました。そしてオルガン曲の前には曲のテーマのコラールを日本語で歌い、

また聴いてくださる皆さまにわかりやすく、祈りとともに音楽をお届けできるようにと藤原公子さんに聖書等の朗読をお願いして演奏会をすすめました。音楽を通して聖週間を迎える心の準備のひと時を皆さまとご一緒に過ごせましたことを幸せに思っています。最後に、このような場を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。(西川 葉)



【典礼聖歌講習会「聖週間の典礼の聖歌」に参加して】

3月4日13時半から3時間にわたり、東京カトリック神学院の講師 齊藤克弘先生をお招きして典礼聖歌講習会が行われました。

今回は聖週間の典礼聖歌を中心に指導していただきました。参加者に積極的に質問するように呼びかけるところから始まり、講習会は参加者との間で活発に双方向のやり取りがありました。復活徹夜祭ミサのアレルヤ唱、342 復活賛歌、聖金曜日の祭儀の317 詠唱、331～十字架の礼拝などを練習しました。齊藤先生は、ミサ式次第の作曲を担当され、講習会の中では記念唱の歌い方のポイントを直接聞くことができました。齊藤先生は、「最後の晩餐で起こっていることが今まさに起こっている」と強調し、講座の中で聖歌の中に出てくる聖書の言葉を丁寧に歌うように何度も繰り返し指導されました。すべての人の救いのために祈り、その祈りを豊かにしたり、神の美しさを表現するのが音楽であること、そして「歌い方＝祈り方が信仰のあり方を決める」という齊藤先生の強いメッセージを受け取ることができたと思います。私は典礼奉仕でオルガンを担当していますが、ミサの中で聖歌をどのような祈りにしていくか、一つ一つ向き合っていく大切さを強く感じました。(オルガン奉仕者 佐藤 雅孝)

枝の主日の準備

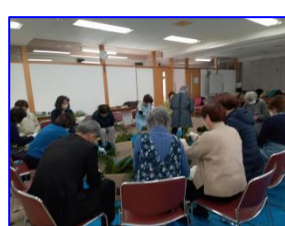
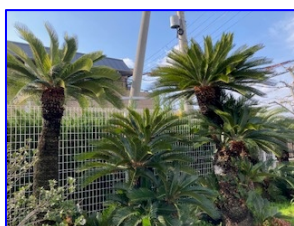
例年「枝の主日」の4日前の水曜日に教会内のソテツの葉の剪定をします。

今年は3月20日「春分の日」の休日に当たり、渡辺神父様、壮年会、教会学校の父兄、こども達、婦人会のメンバー総勢16人で作業を行いました。朝から春の嵐でしたが、剪定の間は太陽の光を浴びながら1時間あまりで作業は終了しました。15日(金)最後の「十字架の道行き」の祈りの後、イグナチオホールで枝の持ち手を整え、「主日」の準備を終えました。

♪シュロの葉を手にとって・・・ホザンナと声たかく♪

聖書に出てくる「ナツメヤシ(ヤシ科)」はシュロと誤訳されていますが、優美、勝利、祝福を象徴する植物です。自生地は北アフリカ、中東、ペルシャ湾。日本には生息していないので、日本のカトリック教会は葉の形態が似ている「ソテツ(ソテツ科)」で代用しています。

(施設管理部 貴島せい子)



写真左から、枝を刈り込む前のソテツ、作業中のみなさん、枝が刈り込まれ・・・枝の整理をしているみなさん。

.....あの日を忘れない ～東日本大震災から 13 年～.....

東日本大震災後、六甲教会の音楽奉仕者有志ほかからなるチェルレウム・マーレの皆さんが、自主活動の一環として幾度か当地を訪れ演奏活動を続けてきたご縁により、今年「東日本大震災・原子力災害伝承館での3.11 メモリアル・イベント」に招待され、その時の様子が福島NHKにより放映されました。また、ふっこうのかけ橋プロジェクトのスタディツアー参加の経験をご寄稿いただきました。

東日本大震災・原子力災害伝承館 “3.11 メモリアル・イベント”に招待されて

私たちは六甲教会の音楽奉仕者メンバーとプロテスタントの友人で活動している、声楽アンサンブル「チェルレウム・マーレ」というグループです。「イソジーナ」という名前で 2005 年より歌い始めました。その後、メンバーも少し入れ替わり、グループ名も変わっていますが、東日本大震災後、岩手県大船渡市立赤崎小学校、「ふっこうの架け橋」プロジェクト支援、福島県川内村の支援などを続けてきました。

特にまだ、原子力災害の続く福島とは「忘れないで繋ごう」と交流を続けています。昨年 11 月には川内村、南相馬などを訪れて 5 回のコンサートを開催、その折に伝承館でも歌わせていただきました。そのご縁で今回の



メモリアル・イベントに招待されました。13 年目の 3. 11、震災の時を現地で過ごすことは大切なことであったと思います。なお、今回のコンサートで使ったピアノは伝承館近くにあり津波被害にあった請戸小学校の 2 階に置かれていて、修復された物です。なお、この時の様子は福島 NHK で放映されました。（右上の QR コードでご覧になれます）。

最初に歌った福島県の小中学生が作詞した「群青」の中の一節です。

＜響け この歌声 響け 遠くまでも あの空の彼方へも 大切な全てに届け＞

（チェルレウム・マーレ メンバー 三浦 優子）

ふっこうのかけ橋プロジェクト スタディーツアーに参加して

2023 年 11 月 23 日(木)～25 日(土)、13 年前に起きた東日本大震災の被災地を訪れスタディーツアーに参加しました。それまでは、被災地のことはテレビや新聞などのメディアからしか情報を得ていませんでしたが、実際現地に行くと、“百聞は一見に如かず”とはまさにこのこと。まず、衝撃的だったのは、仙台空港近くの名取市閑上浜(ゆりあげはま)の広大な更地でした。13 年前、漁港の町として栄えていた名取市は、民家の跡形もなくただ震災慰霊碑だけが立っていました。目の前の綺麗な海が大地震によって 10m 以上の高さの巨大な悪魔の海に変わり、一気に街全体を飲み込んでしまったのです。被害の甚大さに胸が詰まる思いでした。

.....

今回のツアーでは、主に震災遺構の宮城県沿岸部と福島県沿岸部の小学校 4 校を見て回りましたが、それぞれの学校で津波警報が発せられてから必死に生きようとする避難状況がガイドさんの説明から伝わってきました。特に印象深かったのは、隣の避難所まで行くには津波で間に合わないの、祈るような気持ちで校舎の最上階の普段使わない屋根裏部屋に児童全員駆け上がり、寒さと暗闇の中で、なんとか工夫して一晩過ごした中浜小学校の話でした。また、奇跡の脱出と言われている請戸(うけど)小学校では、児童、教師が一丸となって、2km 離れた大平山へ後ろを振り向かず一目散に駆け登り、振り返った時は、その小学校の町、浪江町は海の中に沈んでいた話など、当時の写真も見せていただきながら、生死の境目に立たされた時の緊迫した状況が痛いほどに伝わってきました。

ただ、残念だったのは北上川近くの大川小学校でした。数分歩けばすぐの裏山に上って助かったであろうに、“まさか、海からの水が川の流れに逆らって上がってこないだろう”という誤った判断で校庭に長い間避難待機させられていた児童と教職員は、あっという間に濁流にのみ込まれてしまったのです。

東電廃炉資料館では、地震によって水素の冷却装置が作動なくなり水素爆発により原発事故に至った様子などモニターを通して詳しく説明してもらいました。

南相馬は原発ゼロを宣言しているので、電力の90%は、自然エネルギーによる風力5%とソーラー85%に頼っています。そのためか、車窓の景色は作物を育てている畑ではなく、無数のソーラーパネルが設置された段々畑の丘で、異様な光景でした。これも30年も経てば老朽化して処分問題に突き当たるのかと思うと、問題が山積みです。しかし、当時6年生の児童が18歳になったとき、今何をしているかを綴った手紙が、廃校になった小学校に寄せられ、教室の壁に掛けられているのを読み、勇気づけられました。それはこういう内容です。「今、僕がこうして生きていられるのは、その時に助けてくれた町の人や先生のお蔭です。僕も消防士になって人を助ける仕事につきたいです。」――災害に遭って両親を失い、苦しい思いをしたにも拘わらず、逞しく未来に向かって進もうとしている青年たち（当時子どもたち）の姿に感動し、平凡な毎日でも生きていることがどれほどありがたいかを感じました。（井川 伸子）

神戸地区社会活動委員会が静修会（3月20日）

四旬節第2金曜日（2024年は3月1日）は、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」でした。この日に寄せて、3月20日、カトリック兵庫教会（写真は聖堂内部）で神戸地区社会活動委員会の主催により、「弱い立場にいる人をどうケアするか～ハラスメントの事例から考える」をテーマに静修会が開かれました。講話は六甲カトリック教会の英隆一朗主任司祭。六甲教会からも8人の参加がありました。ハラスメント（harassment；いじめ、いやがらせ）にはいろいろありますが、この日はセクシャルハラスメント（セクハラ）について取り上げられました。



連日、有名人一般人を問わず、性虐待、性加害犯罪でメディアに取り上げられていますが、英神父は教会も例外ではないとされました。ただ司祭、神父などによるそうした事件はなかなか共有されにくい状況にある一方、セクハラ被害の訴えの2、3割もが被害者の勘違いという数字もあると紹介されました。かつて十分な調査もなく有罪で収監された神父の無実がその後に証明されたケースもあったといいます。逆に神父がセクハラやストーカー被害を受ける事例があることも。加害者には認知の歪みがあり、セクハラに罪悪感をもたない者が多いのに、被害者は受けた傷を生涯忘れられずに苦しみ、中には自分の価値を見出せなくなり自暴自棄に陥る人もいるといいます。また加害者は、実は必ずしも全くの他人ではなく、保護者ヅラをして近づいてくるとされました。会の終わりに世話人より、性虐待被害者により深く寄り添うことができるよう、大阪高松教区ではハラスメント対応委員会が、またカトリック中央協議会では各教区のハラスメント等対応窓口を設けられていることが紹介されました。静修会のあとは6つのグループに分かれて分かち合いを行い、最後にミサに与り解散となりました。（取材：広報部）

【4月の社会活動部の予定】

4月 3日（水）10時 手芸の集い 第1、第2会議室

4月13日（土）10時半 炊き出し 小野浜グラウンド
（中央区小野浜町3）

4月15日（月）9時半 ともしび会 教会台所（児童養護施設のこどもたちへのケーキ作り）



写真は3月のともしび会のケーキ



地の塩、世の光

聖書の言葉ではないですが、小学校六年時の堅信で頂いた色紙の聖句です。ご存知の通り、有名な山上の説教での御言葉です。地の塩とは、塩の大切さを例えに、かけがえのない人になりなさい、塩は食物を腐敗させないことから腐敗に打ち勝つ働きをなささいという意味です。また、世の光はもちろん、この世を明るく照らすように働きなさいと意味です。実家の書棚に飾ってあったので毎日目にしており、幼いながらもこの聖句が心に刻まれて育ちました。大学時代には、あまり教会に行っていなかったのですが、イスラエルへの聖地巡りに行く機会があり、死海のほとりの大地の塩、強烈な日差し、聖墳墓教会の薄暗い蝋燭の光を感じ、地の塩 世の光は彼の地で発せられたのだと思い出しました。今回、この聖句について拙文を書くにあたり、それらの事を思い返しとともに、聖句に示された通り振る舞いが出来ているかと内省し、再度その意味を心に刻んで今後も歩んでいきたいと思いました。

施設管理部 園芸係より *・*・*・*・*

教会の花壇にも春を感じる季節を迎えています。

昨年10月、池の名残を留めていた石敷きの広場が皆さまのご協力のもと芝生の庭に生まれ変わりました。庭に腰掛けて寛げるように、そして災害などで聖堂から避難が必要になった際に、スタンドガラスの窓を開けて外に出られるようにとの、英神父様の計画に基づく改修です。この工事に伴って併設の花壇も生まれ変わり、全ての花を植え替える作業を行いました。

園芸係は花壇がいつも美しい状態であることを目指し、皆さまにご協力頂きながら定期的に花を植え替え、日々お手入れに励んでいます。水を撒き、咲き終わった花を摘み、肥料や害虫駆除の薬を撒き、茎が伸びて不安定になれば支え棒を挿し、寒さに弱い多肉植物には手作りビニールハウスを被せることも有ります。



芝生の庭と花壇

教会の花壇は日当たりや風通しが良いので苗が健やかに育ちますが、教会という祈りの場で、園芸係だけでなく教会の皆さまから愛情を受けているからこそ、きれいな花を咲かせると感じています。そしてきれいな花々は私達に安らぎや活力を与えてくれ、また私達が愛情を注ぐという幸せな循環が起こっているとも感じています。そのような場に関われることに感謝し、これからも教会にふさわしい花壇づくりのために微力ながら活動できれば幸いです。(島根 朋子)

☆ **愛と涙のゴリラたち IN ゴンベ畑** 池田雄一（著） NPO 法人「アガペの家」

「東日本大震災」「新型コロナウイルスに負けたらあかん」の支援のため。

☆ **グウタラ神父の山日誌** 伊藤 淳（著） 女子パウロ会

☆ **こどもホスピスの奇跡** 石井光太（著） 新潮文庫

短い人生の「最後」をつくる手助けを。日本初の民間小児ホスピス 大阪「TSURUMI ツルミこどもホスピス」誕生から。

☆ **何を信じて生きるのか** 片柳 弘史（著） PHP

「もう無理です。あとはあなたがやってください」 姜尚中氏推薦。

☆ **前田万葉 句集** かまくら春秋社

前田枢機卿の句は伝達と表現と信仰が融合して心に届きます。

☆ **教会憲章(ラテン語対面訳)** 日本司教団秘書局訳 オリエンズ宗教研究所

第2バチカン公会議の際に決議されたもっとも重要な文書（ちょうど60年前）の一つ。

羅和対訳でとても古い本が出てきました。以前に教会におられた神父様が残していかれたようです。

・図書の配置替えが進行しつつあります。入り口すぐのところの聖書類は奥の方に移動し、大型本は子供コーナーの裏側へ配置するなどです。いろいろ工夫してはありますが、皆さま方がいっそうご利用になりやすいようにしたいと思いますので、お気付きの点やご希望などがありましたら図書室ご意見箱までお知らせください。

「春の墓参」のご報告と、墓地委員会からのお知らせ

3月10日（日）、穏やかな天候の下で「春の墓参」が行われました。

共同墓地への納骨日は、「共同墓地使用規則」で、「春、秋、各1回の『教会墓参の日』」と定められておりますので、ここ数年は、納骨されるご遺骨が十体を超えることが続いていたのですが、今回は一体だけでした。その結果、共同墓地に埋葬されているすべての方に向けての「祈りの会」を、落ち着いた雰囲気の中で、参加して下さった方々と共に行うことができました。

そしてその後、英神父様がすべての個人墓地を回られ、墓参に来られた方がおられるお墓の前では、一緒に「アヴェ・マリアの祈り」を唱え、灌水して祝福され、午後1時過ぎに長峰霊園をあとにしました。

さて、先程も少し触れましたが、このところ、個人墓地を返還されて共同墓地に移られる方を含めて、共同墓地に納骨される方が増え、埋葬されている方のお名前や霊名などを記す墓石のスペースが、残りわずかとなってきておりました。

現在使用されている墓石は、2019年に建てた、プレートを張り付けるタイプのもの2基を含めて、全てお墓を囲む形で建てられています。しかし、新たな墓石も同じように建てるとしますと、残されている場所は、定期的にお花を植え替えるなどして、美しく明るい雰囲気を醸し出してくれている花壇のところしかありません。お世話頂いている迫田石材さんからは、今の花壇の場所に、周りにお花を植えるスペースを残したうえで、既存の墓石を遮らないように、墓石を上向きに埋め込んでという提案をして頂きました。しかし、墓地委員会で検討しました結果、やはり、今の花壇をつぶしてしまうのは忍びないということで、西端の墓石の外側の鉄柵に沿う形で、新たな墓石を建てていくことに致しました。新しい墓石の使用は、既存の墓石に記名のスペースがなくなった時点で始めたいと考えております。

（墓地委員会 コーディネーター 鍵山 浩三）



【2024 年 4 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	事務室休み				初金ミサ 7:00 10:00 ◎灘北 1, 北・三田	
7	8	9	10	11	12	13
復活節第 2 主日 (神のいつくしみの主日) 手話付きミサ 10:00	神のお告げ 事務室休み				◎灘北 2, 阪神	社会活動部 炊き出し 教会学校 入学式始業式 典礼部会 10:00
14	15	16	17	18	19	20
復活節第 3 主日 社会活動部連絡会 10:00 ミサ後	事務室休み				◎大阪シナピス	
21	22	23	24	25	26	27
復活節第 4 主日 世界召命祈願の日 地区役員会 11:30	事務室休み			聖マルコ福音記者	◎灘南・神戸西	◎土曜班
28	29	30				
復活節第 5 主日 施設管理部会 11:30	事務室休み					

◎は掃除当番地区（午前 7 時時点で気象警報が発令された場合は中止します。）

◎4 月は毎月曜日に事務室がお休みになりますが、会議室等のご利用いただけます。ただし 4 月 29 日（祝）はいずれの部屋も使用できません。

カトリック教会は、毎月、「教皇の祈りの意向」を示し、教会全体が日々の祈りの中で、その意向に基づいて祈るように招いています。4 月の祈りの意向は、「女性の役割」です。次のように祈りましょう。

「女性の尊厳と価値があらゆる文化で認められ、様々な差別に終止符が打たれますように。」

【編集後記】

◇ひさしぶりに 12 頁の教会報です。コロナが落ち着き、教会活動も活発になってきたからでしょう、皆様からの寄稿も増えています。新年度を迎えお若い新司祭も着任。新しい花壇では春の花々が目を楽しませてくれています。まさしく「復活」ではないでしょうか。
◇いよいよ桜が咲きます。教会の近くには神戸大学キャンパス、護国神社などお花見スポットがたくさんあります。ミサのお帰りに少し足を伸ばしてみてもは？（余）

・次回 5 月号の発行は 4 月 27 日（土）です。
原稿は毎月 15 日ごろまでに、教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致します。（renraku@rokko-catholic.jp）
皆さまからのご寄稿をお待ちしています。
教会 SNS チームは、フェイスブック、Instagram、X(旧ツイッター)、YouTube チャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。

六甲カトリック教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電話 078-851-2846

FAX 078-851-9023

<http://www.rokko-catholic.jp>

発行責任者 英 隆一朗

編集 広 報 部